

■ I・II群の評価

◎良い4点 ○まあ良い3点 △努力2点 ×1点関連がない・不十分

群	下位項目	評価内容と基準	平均	コメント	方向性
I 教育理念	教育目的	1 卒業時点において育成する看護師等がどのような資質を有しているのかが明示され、その資質が、社会に対する看護の質を保障するのに妥当であるか	3.6	・教育計画の該当箇所:P14の厚生労働省からの「看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標」を下に、P2～5の教育目的とディプロマポリシー(DP)に明示あり。 ・明確さと妥当性の点において改善が必要か。	学校運営・教育活動において根幹・指針となる“群”として、最上位の評価結果を目指し改善していく。 教育計画の評価と修正。 組織内での共通理解向上のための場面設定。
		2 法的整合性と独自性	3.5	・教育計画の該当箇所:P6のカリキュラムポリシー(CP)が主に該当している。 ・教育環境の整え方の明確さが必要か。 ※2点評価あり、改善要素の確認も必要。	
		教育理念・教育目的の意義と周知	3.5	教育計画の該当箇所:P9～12に看護・看護学教育について、P7のアドミッションポリシー(AP)に学生観について明示あり。P1～6の教育理念・教育目的・DPとCPが教師の教育活動の指針に該当している。明確さと妥当性において改善が必要か。 ※2点評価あり、改善要素の確認も必要。	
		看護専門職についての考え方			
		看護教育についての考え方			
学習・教育観と学生観	4 教育理念・教育目的は、学生にとって学習の指針になるように具体的に明示され、実際に指針となっているか	3.7	看護師学校養成所指定規則、専修学校設置基準・学校教育法・学校保健法の下、学生便覧・教育計画に示している。		
教育理念・教育目的の評価	5 自養成所の教育上の特色を示し、かつそれは法との整合性があるか	3.6			
I 群平均			3.6		
II 教育目標	教育目的	6 看護実践者としての能力を育成する側面と、学習者としての成長発達を促すための側面から教育目標を設定しているか	3.8	・I～IX群の中で一番高い結果となっている。 ・評価項目6～10の中では8が一番低く、他の4項目より差もある。評価項目8の『継続教育の考え方』については、教育計画P3・4にあるDP1の“成長し続ける力”に明示し、教育計画P12の「看護学教育に関する基本的な考え方」にある“自分の将来像をイメージする”中で生涯学習について明示している。明確さと妥当性において改善が必要か。	教育計画の評価と修正。
		7 目標内容の側面と到達レベルの側面	3.8		
		8 設定意図とその明確性、実現可能性	3.4		
		9 教育目標の評価	3.7		
		10 継続教育との関連	3.7		
II 群平均			3.7		